

地雷撤去

明石 康さん

(次期国連人道問題局長)

国連の二つの平和維持活動(PKO)にたずさわった。カンボジアは一応の成果を収めたことには異論はなからうが、旧ユーゴスラビアは十分な成果をあげることができなかった。

というのも、カンボジア紛争は米ソの代理戦争という側面があり、冷戦の終結とともに存在理由を失ったのに対し、旧ユーゴはむしろポスト冷戦の所産で、解決は難しい。こうした種類の民族紛争はこれから増えるだろう。

国連が紛争解決に成功する前提は、まず民衆が戦いにあきあきすることだ。カンボジアはそうだったが、旧ユーゴはごく最近まで各派の指導者の戦闘意欲が強かった。それに国連を支援する国の団結が必要だが、旧ユーゴの場合、各国の呼吸が合わない場合が

原子力関係者にとって、当初高速増殖炉は新しいエネルギー

事故隠し

森 一久さん

(日本原子力産業会議専務理事)

水炉全盛時代に入った。

高速増殖原型炉「もんじゅ」に使うナトリウムは熱伝

達がよく、電気の良導体だが、冷却材として人間が初めて使うものだけに問題点が多い。日本では事故がなかった

ので、外国のように悪いことはおこるまいと安心して

いた。それが事故をおこし、あわてふためいて取り乱し、ついには世論の反発を招く「事故隠し」に走ってしまった。

高速炉の原料プルトニウムは、軍事に関係があるので、技術の国際交流が少なく、先進のフランスなどから、もっと教えてもらわなければならない。

動力炉・核燃料開発事業団(動燃)も官庁指導が強まって、不透明な体質になっていったらしい。

(2月14日)

日本記者クラブから

多かった。

近く国連人道問題局(人道援助局の訳は誤り)の局長に就任する。四年前にできた新しい局だ。当面の問題は紛争地の地雷の撤去である。これは何世代かかわるからぬ難しい仕事だ。

(2月14日)

ギ一源として高い関心を集めていた。だが、旧ソ連が世界で最初の商業用原子力発電所をつくると発表したことから、西側陣営は研究中の増殖炉を差し置いて、潜水艦に使っていた軽水炉をまず使おうということになり、今日の軽

9/2/24
9/2/24